



教育データサイエンス

特例教職科目「教育データサイエンス」の 授業を岩手大学で展開しました

実施期間：2025年10月～2026年2月

連携先：岩手大学教育学部

担 当：大林要介（岩手大学）、澤山郁夫（兵庫教育大学）

兵庫教育大学が教員養成フラッグシップ大学の特例教職科目として開発・実施している学部1年次必修科目「教育データサイエンス」の内容を、岩手大学教育学部の2025年度後期科目「基礎統計解析の理論と実践」（全14回、担当：大林要介講師）において展開しました。

本展開にあたっては、まず、2025年7月から12月にかけて計5回のオンラインミーティング（連携FD）を実施し、これまで兵庫教育大学が実施してきた科目「教育データサイエンス」の授業内容や方法、その課題等について共有しました。その上で、岩手大学での実施内容については、兵庫教育大学の2024年度の実践で使用した全15回分の授業資料を参考に、大林先生が岩手大学の科目特性やMDASH認定の要件を考慮しながら適宜取捨選択して14回分の授業を構成しました。

授業最終回（2026年2月2日）では、株式会社MM総研との連携授業を実施しました。この連携授業は、兵庫教育大学の科目「教育データサイエンス」でも、毎年最終回に実施しているものです。2025年度の連携授業では、MM総研の中村様より、教育関係企業としてのデータサイエンス活動や昨今のデータサイエンス事情についてご講話いただいた後、受講生が提出したレポート課題（テーマ：学校における教育

データサイエンスの活用）へのご講評をいただきました。さらに、今後求められる、教育分野におけるデータサイエンスのあり方について、フロアを交えたディスカッションを行いました。

データ収集の重要性

●どんな分析もデータがないとはじまらない

調査分析の専門家としての信頼を得るためにデータ収集を大事にしています

- ・取りにくい、よくわからないとされる領域
✓ どうすればわかるのか？どの程度まで
- ・調査分析の手法を体系的に用いアプロー
✓ 実験型もあるが、フィールドが不足
✓ そうしないとビジネスイベントに関
- ・結果を独り占めにしない(聞けない)、可
✓ 必ず建設的な反響が来る。こんな角
んなデータ収集はできないか、なぜ

課題フィードバック

テーマ「学校における教育データサイエンスの活用」
あなたは新任の学校教員として、教育データサイエンスの知識を活かして授業改善や学級経営を行いたいと考えています。教員は中学校教員

- ・ 皆さんの課題提出資料を拝見させていただきました。各提出内容に対して調査会社の視点でコメントフィードバックさせていただきます。
- ・ 分析手法選択の正しさ(評価)というよりも、動機とテーマ設定、アプローチの手段、調査分析全般における専門会社視点での留意点、教育業界に向けた調査経験による私見などの観点でのコメントとなっておりますので承知おきください。

中村様によるスライドの一部

連携授業を受けた岩手大学の受講生からは、「やはり最前線に行く企業であることから、知識や技術力だけではなく社会を読み取る力もとても高いと感じた。」「授業で学んだ内容が社会で発展的に使われていることが理解できた。」「本講義で学んだ内容を教員生活に活かしたいと思いました。」「実際に実習に行った時にやってみようかなと思えた。」といった感想が寄せられ、連携授業が、データサイエンスと実社会とのつながりを具体的に考える機会となったことが示唆されました。